

中等科音楽科教員養成課程におけるピアノ指導に関する一考察 ー 授業改善に向けた新たな試みとしてのグレード表の導入 ー

村 田 睦 美 小 見 山 純 一

岐阜聖徳学園大学教育学部

市 野 啓 子 大 島 晶 子 河 村 義 子 樋 上 莊 一

岐阜聖徳学園大学教育学部非常勤講師

A study on piano instruction in music teacher training courses in secondary education:

Introducing a grade list as a new trial for class improvement

Mutsumi MURATA, Junichi KOMIYAMA

Keiko ICHINO, Akiko OHSHIMA, Yoshiko KAWAMURA, Soichi HIGAMI

キーワード：ピアノ指導 グレード表 教員養成 授業改善

I. はじめに

岐阜聖徳学園大学教育学部学校教育課程音楽専修には、小学校、中学校、高等学校の教員を目指している学生が数多くいる。とりわけ中学校、高等学校の教員として音楽指導を行っていく上では、鍵盤楽器の演奏技能が欠かせない。しかし、大学入学までにピアノの経験が極めて少ない学生も見られるのが現状である。そのためピアノの実技指導を行う授業では、ピアノの学習経験の少ない学生たちと、幼少の頃からピアノ等のレッスンを受けてきた学生や高等学校の音楽科等で専門的に学んできた経験のある学生たちとの演奏レベルには顕著な差がみられる。そのような学生を対象として授業を行っていく上では、いかに個を尊重した指導を行い、適切に評価していくか、また、大学の限られた授業時間の中で、教員の資質として求められるピアノの演奏技能を効率的に、かつ学生自身が意欲をもって習得できるようにするような指導の在り方を追求することが、授業の質を向上させるための大きなポイントといえる。

従来、授業におけるピアノ指導の改善に取り組みを重ねてきた。そのような試みの一環として、授業で取り扱う課題曲のグレード表を作成し、平成29年度前期の授業から指導に導入した。本稿では、このグレード表を使用して授業を受けた学生によるアンケート調査をもとに、グレード表導入の有効性や課題を明らかにし、今後のピアノ指導の指針を得たい。

II. 授業の概要と授業改善に向けた取り組み

1. 授業の概要と指導の課題

本学では、音楽専修の学生を対象にピアノ実技に関わる科目として、鍵盤楽器演奏Ⅰ、同Ⅱ、同Ⅲ、同Ⅳが開講されている。科目名、開講年次、授業内容を表1に示した。

表1 鍵盤楽器演奏の開講年次と授業内容

科目名		開講年次	授業内容
鍵盤楽器演奏Ⅰ (伴奏法を含む。)	必修	1年次前期	ツェルニーやショパン等の練習曲 中学校の歌唱共通教材を中心とした伴奏法
鍵盤楽器演奏Ⅱ	選択	1年次後期	J. S. バッハを中心としたバロック時代の楽曲
鍵盤楽器演奏Ⅲ	選択	2年次前期	ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェンを中心とした古典派の楽曲
鍵盤楽器演奏Ⅳ	選択	2年次後期	ロマン派、近現代の楽曲

この授業の到達目標は、中等科の音楽科教員として必要なピアノ演奏における基礎的な技能や知識の習得である。必須科目は1年次前期のみとなっているものの、ピアノの技能・知識を伸ばすために学生には、可能な限り鍵盤楽器演奏Ⅱ、Ⅲ、Ⅳも続けて履修するように指導しているため、音楽専修のほとんどの学生がピアノの演奏技能を2年間にわたって習得していく。

「鍵盤楽器演奏」はクラス単位で授業が進められていく。受講生は4～6人で一つのクラスに分けられる。教員は90分の授業の中で個別指導や必要に応じたグループ指導を行う。どのような形態で指導するかは、担当したクラスの学生の状況を考慮して、各教員が判断することになっている。

授業で取り組む課題曲の選定については、学生の希望をもとにしながら、必要に応じて教員がその学生に相応しいと判断した曲の指示を交えて、決定される。半期の授業の中で、個々の演奏技能に応じた課題曲に、それぞれの進捗で取り組み、授業の最終回には、その学習の成果を受講生や教員の前で発表する。

ピアノの学習は、ともすると一人の作業に終結してしまう。また、発表というスタイルの学習には、メリットとデメリットが混在する。そこで本科目では、次のような成果を期待して発表を行っている。①発表では、他の学生の姿勢や努力、表現の違いを知ること、良い意味での刺激を受けることで受講生の技能と学習意欲を高める。②他からの刺激や客観的な聴取に加えて、発表という期日の決まっている一つの目標に向けて具体的にピアノに取り組むことによって、計画性と実行力を養う。③人前で演奏することに対するプレッシャー等、精神的なコントロールの難しさの克服に繋げる。④音によって他者に何かを伝えようとするコミュニケーション能力の向上に繋げる。演奏する上で、発表するという経験から学んでいくことも多いと考えられる。

ただし、発表には上記のような様々な成果が期待される一方、発表の機会があることで、自分と周囲の差を気にして、競争だけに目が向けられてしまう危険性もある。そうならないために、ピアノの学習は他者との安易な比較ではないこと、自分自身がどのように成長していくかであるということを学生たちに明確に意識させる必要がある。例えば、ピアノ経験が多い学生には、現状に留まらずより一歩進み、そして、ピアノ経験が少ない学生は努力を重ね、初心者が常に抱えている“弾けない”という負の意識を克服していくことが、中等科養成課程におけるピアノの重要性であり、その両極をバランス良く育てていくことが、ピアノ指導の一つの課題であると捉えている。

こうしたことを念頭に、「鍵盤楽器演奏」では、学生の技能の向上や効率的な指導を行うために、様々な授業改善を試みてきた。次節では、まず平成28年度の取り組みを紹介した上で、平成29年度の取り組みについて述べていきたい。

2. 授業改善にむけた取り組み

(1) 平成28年度－グループ指導と授業振り返りシートの導入－

平成28年度には、二つの取り組みを行った。第一点は、従来、行ってきた教員と学生の対一の個別指導に加えて、グループ指導を新たに取り入れたことである。この取り組みは、学生から「指導を受ける時間が短い」という声も以前から聞かれてきたことを踏まえ、授業の質的な改良を図る上で授業の指導形態について検討した結果である。グループ指導には、大きく二つのメリット、すなわち効率良い時間の使い方と学習の質の面でメリットがある¹⁾。例えば、学生に共通して認識させたい事項や要素については一括して指導でき、限られた時間を効率的に活用することができる。それと同時に、学生間の相互作用、客観的な聴取、アンサンブル演奏等の効果が期待できるというメリットもあり、一人ひとりの能力や個性に対応できる個別指導と併用して、それぞれの指導形態の良さを活かしながら指導できるよう工夫した。

指導を行う上でのクラス分けについては、平成28年度以前は学生の演奏レベルを資料としてクラス分けをするのではなく、名簿順にほぼ機械的に振り分けを行ってきた。しかし、グループ指導を効果的に行うためには、受講生の取り組み課題や演奏レベルが、ある程度同等である方が適切ではないかと判断され、授業の初回に行う鍵盤楽器の学習経験の調査による情報をもとにクラス分けを行うという改善を行った。

第二点は、「授業振り返りシート」を取り入れたことである。受講生に毎回、その日の学びや授業の要点、及び各自の取り組み内容や成果、次回の課題を自分でシートにまとめさせることによって、授業の振り返りをさせた。このシートは、学生の振り返りのみならず、指導した内容を学生がどの程度、理解しているかを教員が把握するためにも活用した。また、この学生の記述による「授業振り返りシート」

とは別に、教員自身も受講生それぞれのシートを作成しており、学生の様子や授業をしていて気になったこと、指導内容や次の課題等を書き込んだ。学生が記述したシートと教員が記述したシートの内容とを照らし合わせ、以後の授業に向けた内容の検討等に繋げたのである。

授業振り返りシートは、巻末の図3に掲載した。

(2) 平成29年度－グレードの導入－

平成29年度には、前年度に取り入れたグループ指導をさらに充実させるためにグレード表を導入することとした。従来、取り組む課題曲の選定については、個々の学生、あるいは担当教員に任されてきた。しかし、学習経験の少ない学生にとっては、自分の演奏技術に相応しい曲を見分ける作業は困難である。また、ある程度学習経験のある学生でも、楽曲に対する知識が乏しいものも少なくない。そのためメディアでよく耳にするもの、あるいは表面上の効果だけを狙ったもの、授業の限られた時間の中では学習しきれないような大曲等を選択する傾向が強くみられる。自分に適切な曲を見極めて選曲することは難しいといえる。こうした理由から、学生の選曲のガイドとなるような、学生にとって学習することが望まれる曲をリストアップし、選曲の目安として活用できるグレード表を作成することにした。このグレード表は、学生が授業で取り組む課題曲を10段階のグレードに分け、全体像を見渡すことができるような一覧表にしたものである。巻末に表3、表4に掲載した。グレードの内容については、それらを参照されたい。

楽曲のリストアップにあたっては、複数の点について考慮した。まず、半期という期間と最終回の発表を考慮して、演奏時間が長過ぎるものは避けた。また、課題曲の数を多めに設定して、学生が複数の曲の中から選択できるよう自由度を残した。楽曲をリストアップするだけでなく、グレードを設定したのは、学生自身に自分の演奏技術の位置を把握し、次のグレードに挑戦しようという目標をもたせるためである。

さらに、評価の方法についても改めて検討を行った。演奏レベルに差のある学生を一つの科目の中で適切に評価するために、曲の難易度に応じて、グレードごとに補正を行った。補正率を表2のように設定した。

次章では、授業後に行ったアンケート調査の分析結果をもとに、グレード表の導入の成果と課題を考察し、その上で、グレード表を用いた学習の有効性について考察したい。

表2 グレードごとの補正率

グレード	G1	G2	G3	G4	G5	G6	G7	G8	G9	G10
補正率	0.85	0.86	0.87	0.88	0.90	0.92	0.94	0.96	0.98	1.00

Ⅲ. 調査の内容と結果

1. 実践研究の方法と内容

ここでは紙幅の都合により、「鍵盤楽器演奏Ⅰ～Ⅳ」のうち、必修科目である「鍵盤楽器演奏Ⅰ（伴奏法を含む。）」での調査に的を絞って考察を進めることにする。平成29年度「鍵盤楽器演奏Ⅰ」の履修者27名を対象として、アンケート調査を授業の初回と最終授業終了後の計2回実施した。

第1回目の調査では、学生の鍵盤楽器における学習経験の実態の情報を得ることを目的とし、授業の初回である平成29年4月13日に、調査紙を用いて記述式で行い、回答率は100%であった。この調査で設定した質問は以下の通りである。

- Q1 ピアノの経験の有無、経験がある場合、学習した年数と年齢
- Q2 電子オルガン（エレクトーン等）の経験の有無、経験がある場合、学習した年数と年齢
- Q3 鍵盤楽器の経験がある人に対して、弾いたことがある曲や使用した教材
- Q4 一週間におけるピアノの学習日数
- Q5 鍵盤楽器以外の音楽経験

このアンケートの回答をもとに、ピアノの経験年数、学習した年齢、演奏してきた曲目等を考慮して、受講生を5～6人ずつの5クラスに分けた。経験年数とグレードは必ずしも対応するものではないことから、初回の授業時に実際に演奏させ、どの程度弾けるのか現状を把握した後、学生と相談しながら担当教員が開始グレードを決定した。授業の初回に、このような授業の環境を作った上で、13回の授業と実技発表を行った。

第2回目のアンケート調査は、「学生の学習状況」、「授業満足度」、「グレード表による成果」について学生の視点から知ることを目的とし、最終授業日の平成29年度7月27日から1週間の回答期限を設定して行った。インターネットのマナログを用いて、選択式、記述式の両方を含む質問を行い、回答率は81%であった。質問事項は以下の通りである。なお、第2回目のアンケート調査は無記名とした。

- Q1 授業にあたっての一週間のピアノの学習日数
- Q2 一日にかける練習時間
- Q3 演奏技術についての指導が十分であったか
- Q4 作品の知識や内容についての説明が十分であったか
- Q5 演奏技術に変化は見られたか
- Q6 グレード表を用いた授業についての感想

次節では、上記のアンケート調査によって得られた回答のうち、特にグレード表に重点を置いて述べていくことにする。

2. 調査結果

(1) 授業開始時と授業後のグレードの比較

「鍵盤楽器演奏Ⅰ」の学習を通して、学生のピアノの技能がどの程度、変化したのかをみていこう。第1回目（授業開始時）と第2回目（授業終了時）のグレードの該当者数は次のようになる。

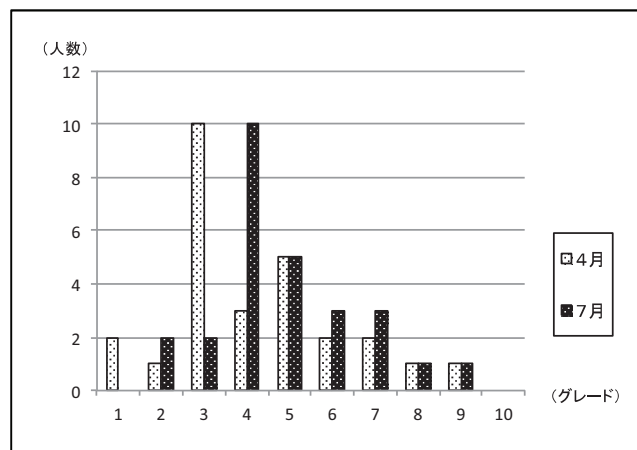


図1 授業開始時と授業終了時のグレードの該当者数の比較

図1のグラフでは、次のような学生のグレードの変化が注目される。第一に、グレード1から始めた学生は、7月の調査では該当数が0になったことである。第二に、授業開始時に一番多かったグレード3に属した学生のほとんどが、グレード4に上がったことである。第三に、全体的に、ピアノ学習経験が少ない学生については、グレードが上がりやすく、その一方で、学習経験が多い学生については、グレードに変化はあまりみられず、特にグレード8、9の学生についてはまったく変化しなかったことである。

では、学生の学習の様子をみてみよう。例えば学生 A は、授業開始時のグレードは 3 で、学習経験が少なく、演奏レベルは高くなかったものの、授業を受けていく中で少しずつ演奏技能に向上がみられた。この授業の中で、学生が取り組んだ曲の数は平均しておよそ 2 曲であったのに対し、この学生は 5 曲を学習した。授業終了時にはグレード 5 まで到達し、演奏レベルにも大きな変化が見られた。また、学習経験の多い学生については、例えば学生 B は、授業開始時、授業終了時ともにグレード 8 であり、表面的にはグレードには変化がみられなかった。授業で取り組んだ曲の数も 2 曲と平均的ではあるものの、取り組みの中で、音を正確に読み取るだけでなく、ペダルの使い方や弱音の出し方といった表現力に関わる技術の向上等の変化が見られたことが「授業振り返りシート」によって確認されている。このように、上級グレードの学生の取り組みは、アンケート調査だけでは見えてこないことも多い。

(2) グレード表を用いた授業に対する学生の反応

グレード表を活用した授業における感想については、受講生全員が肯定的な意見であり、グレード表の活用に対しての否定的な意見は一人も見られなかった。

アンケート調査では、グレード表について学生に自由記述を求める欄を設けた。記述の内容は大きく三つに整理される。複数回答有り。

- ①自分の位置や演奏レベルの把握 (18 人 90%)
- ②学習意欲 (5 人 25%)
- ③達成感 (3 人 15%)
- ④その他 (1 人 5%)

学生の自由記述の詳細を図 2 に示す。

①自分の位置や演奏レベルの把握

- ・自分がどれくらいのレベルの曲を練習しているのかがわかりやすかったから。
- ・自分のレベルに合わせた曲を選べた。また目指すべきレベルも分かった。

②学習意欲

- ・上を目指して頑張ることができました。
- ・自分の現段階のレベルがよくわかったし、向上心が生まれたから。

③達成感

- ・グレードがあることによって、次に進めると合格をもらった嬉しさがあり、がんばれました。
- ・自分のレベルが分かり、グレードが上がったときに達成感が得られました。

④その他

- ・同じグレードの中でも曲によって難易度にバラつきがあった。

図 2 学生のグレード表に関する自由記述 (原文のまま記載する)

次章では、上記のアンケート調査結果、および最終授業終了後に回収した「授業振り返りシート」をもとに、グレード表を用いた学習の有効性について考察を進めていきたい。

IV. 考察—グレード表を用いた学習の有効性と課題—

前述したように、受講生に多く見られたグレード表に関するアンケート調査の自由記述から、学生の多くは、グレード表を非常に意識しながら授業を受けていたことが分かる。グレード表に対する否定的な回答が全くなかったことから、導入は学生に受け入れられるものであり、授業を進めて行く上で、全体として大きな問題は生じさせるものではなかったといえよう。

ここで、グレード表の導入によって得られた成果についてみていきたい。成果の第一は、グレード表を取り入れることで、それまで個々の担当教員に任せていた選曲に統一性が生まれたことである。選曲の統一性が生じたことによって、同じ曲に取り組む学生が、授業で他の学生の演奏を聴いて、次に取り組

む曲の参考にしたり、自主的に学習したりすることが可能になったことである。グレード表が、曲を知る上でのガイドになり、自発的な曲選択、自分の立ち位置の把握、達成度を学生自身が認識するのに役立ったことも示された。

第二に、目標が具体的にすることが学習意欲へとつながり、学生の意欲付けのきっかけを得たことが挙げられる。学生自身が、自分の現在の位置や演奏レベルを具体的かつ客観的に認識できたことと、その次のステップを意識することによって、自分の課題として目標をより明確に捉えられたのではないだろうか。アンケート調査のピアノの学習頻度の設問では、授業開始時の調査では、ピアノの練習は週に一回以内という取り組みに対して消極的な学生が、全体の 22.2% を占めていたのに対し、授業終了時の調査では、そのような学生はいなくなり、全体的に学生のピアノの学習時間が増加した。このことから学生が自主的に、意欲をもって授業に取り組めたといえる。

また、教師の側にも、評価の点で変化が現れた。上述したような学生の頑張りや意欲を評価することによって、最終発表で演奏した曲のみについての、通り一遍の評価に終わらずに、一人ひとりの学習の過程を重視した授業へと、ここでも指導の質的な高まりが認められたといえよう。

このようにグレード表の有効性が明らかになった一方で、様々な課題も見えてきた。ここでは、次の二点「上級者のグレードの進展」、「担当教員の捉え方」に注目して述べてい。

課題の一つ目として、上級グレードは、ピアノの初級グレードに比べてグレードが進まないため、達成感を味わいにくいということである。これは、曲の難易度が高いため、一つの曲を完成させることに多くの時間を費やすことが要因の一つといえる。上級者は、音の響きや音色のコントロールというような習得に時間を要する表現力に関わるような内容を、複雑な演奏技術と同時に学習しなければならない。アンケート調査から見えてくる結果は、およそ目安として得るものは多い。しかし、音楽の特質自体、単に数字の増減だけでは読み取れないものがある。そのような数字に表せないものをしっかり見ていながら、適切な指導を行っていく必要がある。この点は今後の課題ともいえる。

次に、課題の二つ目として、担当教員の考え方の相違によって、グレードの扱いに関して差が生じてしまうことである。授業は複数の教員により、クラス単位で行われる。そのため、同程度の演奏レベルであったとしても、教員による捉え方に違いが生じることもありうる。また、同程度の曲であっても異なるグレードになりうる可能性もある。さらに一つの曲をどれくらい完成させてから、次の新しい曲に進んでいくのかについても当然、教員による差異が伴う。グレードを意識し過ぎるあまり、担当教員の判断の相違に不満を感じる学生もいるであろう。教員が全く同じ判断、考え方をする必要はないものの、ある程度グレード決定、グレードを進む際の共通認識となる基準を作る必要があるかもしれない。

アンケート調査で「競争意欲がわく」といった学生の記述があったように、グレード表によって自分の位置が明確になることで、他者への対抗意識が強くなる傾向が見られた。競争心は、具体的な目標ができることによって良い効果をもたらす反面、限られた範囲の中だけの視野の狭い競争に終わってしまう危険性もある。特に上級者においては、初心者と比べることで現状に満足してしまうため、それ以上の向上が見られないこともある。そうしたことから、ピアノの学習は他者との安易な比較ではなく、個人の中での絶対値であるということを学生に明確に認識させる必要性が改めて明らかになった。

V. まとめと今後の展望

本研究では、平成 29 年度に導入したグレード表の有効性と課題について、アンケート調査の分析結果と学生による「授業振り返りシート」の記述をもとに考察を進めてきた。その中でグレード表の内容のさらなる検討が必要であることが明らかになった。ピアノの経験に差がある学生が混在する教員養成課程のピアノ指導では、これまで初心者の対応には様々な検討がなされてきたように思われる。しかし、その一方で、上級者に対する検討は十分とはいえない。上級者への対応にももっと目を向けていく必要があるといえる。例えば、今回導入したグレード表を活用していくならば、上級者の意欲を喚起する上で、上級グレードの中をさらに細分化していくこと、さらには表現力に関わるような内容も含めてグレード化すること、グレードの設定、修了に際して共通となる基準を設けること、グレードの曲数や学生からの指摘を踏まえて難易度についての検討、等が挙げられる。

今後は、グレード表を選曲の目安にするだけにとどまらず、グレード表を生かした指導についても具体的・実践的に考えていきたい。

なお、今回のアンケート調査では、個々の学生のピアノに対する見解の違いやそれぞれが抱えているピアノに対しての意識についての詳細には踏み込んでいない。今後の課題として、楽曲の修正箇所や弾き方等を教員から学生へ伝えるというだけの指導にならず、限られた時間の中で、いかに学生の成長を促すか、継続して探究していきたい。一つの視点として、学生自身が感じ、抱えている課題に目を向けていくことも必要であり、そこにも授業の質を改善していく上でのきっかけがあるのではないかと考えている。

注・文献

- 1) 村田睦美(2004)：教員養成課程におけるピアノ指導に関する一考察—成人の初心者を中心としたグループ指導の可能性—，京都女子大学『教育学科紀要』第44号，pp.169-179

〈学生用〉

鍵盤楽器演奏個人カード				
授業	グレード	学籍番号	氏 名	担当教員
自分の目標				
回	授業日	取組内容	課題・成果等	
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15		試験曲：		
反省点・感想				

〈教員用〉

教員用 鍵盤楽器演奏個人カード				
授業	グレード	学籍番号	氏 名	担当教員
開始時所見				
回	授業日	取組内容	課題・成果等	
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15		試験曲：	評価：	
終了時所見				

図3 平成29年度 授業振り返りシート

平成29年度に配布した授業振り返りシートの名称は、「鍵盤楽器演奏個人カード」とした。

表3 平成29年度 鍵盤楽器演奏Ⅰのグレード表

鍵盤楽器演奏Ⅰ			課題曲リスト			
グレード	作曲者	曲名	終了印	作曲者	曲名	終了印
1	バイエル	88		ブルグミュラー25の練習曲	アラベスク	
	バイエル	90		ブルグミュラー25の練習曲	バスターラル	
	バイエル	91		ブルグミュラー25の練習曲	やさしい花	
	バイエル	93		ブルグミュラー25の練習曲	ちょっとした悲しみ	
	バイエル	94				
2	バイエル	96		ブルグミュラー25の練習曲	バラード	
	バイエル	98		ブルグミュラー25の練習曲	タランテラ	
	バイエル	100		ブルグミュラー25の練習曲	天使の合唱	
	バイエル	102		グルリット24の旋律的練習曲	かわいなお花	
	バイエル	104		グルリット24の旋律的練習曲	狩りの楽しみ	
	ブルグミュラー25の練習曲	シュタイナー-舞曲		グルリット24の旋律的練習曲	スケルツォ	
3	ツェルニー30番	2		モシュコフスキー20の小練習曲	3	
	ツェルニー30番	6		ベルティーニ25の練習曲	1	
	ツェルニー30番	11		ベルティーニ25の練習曲	2	
	ツェルニー30番	13		ベルティーニ25の練習曲	3	
	ツェルニー30番	16		ベルティーニ25の練習曲	4	
4	ツェルニー30番	19		モシュコフスキー20の小練習曲	2	
	ツェルニー30番	21		ベルティーニ25の練習曲	11	
	ツェルニー30番	25		ベルティーニ25の練習曲	15	
	ツェルニー30番	26		ベルティーニ25の練習曲	16	
	ツェルニー30番	27		ベルティーニ25の練習曲	24	
				ベルティーニ25の練習曲	25	
5	ツェルニー40番	9		モシュコフスキー20の小練習曲	7	
	ツェルニー40番	11		モシュコフスキー20の小練習曲	9	
	ツェルニー40番	13		モシュコフスキー20の小練習曲	15	
	ツェルニー40番	14			5	
	ツェルニー40番	19			6	
					11	

表4 平成29年度 鍵盤楽器演奏Ⅲのグレード表

鍵盤楽器演奏Ⅲ			課題曲リスト		
グレード	作曲者	曲名	終了印		
1	クレメンティ	ソナチネ第7番 ハ長調 Op.36-1 より第1楽章			
	クレメンティ	ソナチネ第7番 ハ長調 Op.36-1 より第3楽章			
	クレメンティ	ソナチネ第8番 ト長調 Op.36-2 より第1楽章			
	モーツァルト	6つのウィーンソナチネ第5番 より第3楽章 ボロネーズ			
	モーツァルト	6つのウィーンソナチネ第1番 より第2楽章 メヌエット アレグレット			
2	ベートーヴェン	ソナチネ第5番 ト長調 より第1楽章			
	ベートーヴェン	ソナチネ第5番 ト長調 より第2楽章			
	クレメンティ	ソナチネ第8番 ト長調 Op.36-2 より第3楽章			
	クレメンティ	ソナチネ第9番 ハ長調 Op.36-3 より第1楽章			
	クレメンティ	ソナチネ第9番 ハ長調 Op.36-3 より第3楽章			
3	モーツァルト	6つのウィーンソナチネ第1番 より第4楽章 アレグロ			
	モーツァルト	6つのウィーンソナチネ第6番 より第1楽章 アレグロ			
	モーツァルト	6つのウィーンソナチネ第6番 より第4楽章 フィナーレ			
	ベートーヴェン	ソナチネ第6番 ハ長調 より第1楽章			
	ハイドン	ピアノ・ソナタ ハ長調 Hob.XVI.35 より第1楽章			
4	モーツァルト	ピアノ・ソナタ ハ長調 K.545 より第1楽章			
	モーツァルト	ロンド ニ長調 K.485			
	ベートーヴェン	ピアノ・ソナタ 第1番 ヘ短調 Op.2-1 より第1楽章			
	ベートーヴェン	ピアノ・ソナタ 第19番 ト短調 Op.49-1 より第1楽章			
	ベートーヴェン	ピアノ・ソナタ 第20番 ト長調 Op.49-2 より第1楽章			
5	ハイドン	ピアノ・ソナタ ト長調 Hob.XVI.27 より第1楽章			
	モーツァルト	ピアノ・ソナタ ト長調 K.283 より第1楽章			
	モーツァルト	ピアノ・ソナタ ヘ長調 K.332 より第1楽章			
	ベートーヴェン	ピアノ・ソナタ 第6番 ヘ長調 Op.10-2 より第1楽章			
	ベートーヴェン	ピアノ・ソナタ 第8番 ハ短調 Op.13 より第3楽章			
6	ベートーヴェン	バイシュェルの歌劇「水車屋の娘」の Aria「田舎者の恋は何と美しく」による9つの変奏曲 イ長調			
	ハイドン	ピアノ・ソナタ ニ長調 Hob.XVI.37 より第1楽章			
	モーツァルト	ピアノ・ソナタ ヘ長調 K.280 より第1楽章			
	モーツァルト	幻想曲 ニ短調 K.397			
	ベートーヴェン	ピアノ・ソナタ 第4番 変ホ長調 Op.7 より第1楽章			
7	ベートーヴェン	ピアノ・ソナタ 第18番 変ホ長調 Op.31-3 より第1楽章			
	ベートーヴェン	ピアノ・ソナタ 第25番 ト長調 Op.79 より第1楽章			
	ハイドン	ピアノ・ソナタ ニ長調 K.280 より第1楽章			
	モーツァルト	ピアノ・ソナタ ヘ長調 K.280 より第1楽章			
	モーツァルト	幻想曲 ニ短調 K.397			
8	ベートーヴェン	ピアノ・ソナタ 第4番 変ホ長調 Op.7 より第1楽章			
	ベートーヴェン	ピアノ・ソナタ 第18番 変ホ長調 Op.31-3 より第1楽章			
	ベートーヴェン	ピアノ・ソナタ 第25番 ト長調 Op.79 より第1楽章			
	ハイドン	ピアノ・ソナタ ニ長調 K.280 より第1楽章			
	モーツァルト	ピアノ・ソナタ ヘ長調 K.280 より第1楽章			
9	モーツァルト	幻想曲 ニ短調 K.397			
	ベートーヴェン	ピアノ・ソナタ 第4番 変ホ長調 Op.7 より第1楽章			
	ベートーヴェン	ピアノ・ソナタ 第18番 変ホ長調 Op.31-3 より第1楽章			
	ベートーヴェン	ピアノ・ソナタ 第25番 ト長調 Op.79 より第1楽章			
	ハイドン	ピアノ・ソナタ ニ長調 K.280 より第1楽章			
10	モーツァルト	ピアノ・ソナタ ヘ長調 K.280 より第1楽章			
	モーツァルト	幻想曲 ニ短調 K.397			
	ベートーヴェン	ピアノ・ソナタ 第4番 変ホ長調 Op.7 より第1楽章			
	ベートーヴェン	ピアノ・ソナタ 第18番 変ホ長調 Op.31-3 より第1楽章			
	ベートーヴェン	ピアノ・ソナタ 第25番 ト長調 Op.79 より第1楽章			

鍵盤楽器演奏Ⅰ			課題曲リスト			
グレード	作曲者	曲名	終了印	作曲者	曲名	終了印
6	ツェルニー40番	29		ツェルニー50番	3	
	ツェルニー40番	33		ツェルニー50番	5	
	ツェルニー40番	34		ツェルニー50番	8	
7	ツェルニー50番	11		ショパン12の練習曲	25-1	
	ツェルニー50番	16		ショパン12の練習曲	25-2	
	ツェルニー50番	42				
	ツェルニー50番	45				
8	モシュコフスキー15の練習曲	2		ショパン12の練習曲	10-5	
	モシュコフスキー15の練習曲	6		ショパン12の練習曲	10-9	
				ショパン12の練習曲	25-3	
				ショパン12の練習曲	25-9	
9	モシュコフスキー15の練習曲	9		ショパン12の練習曲	10-4	
	モシュコフスキー15の練習曲	11		ショパン12の練習曲	10-8	
				ショパン12の練習曲	10-12	
10	スクリャービン12の練習曲	8-2		ショパン12の練習曲	10-1	
	スクリャービン12の練習曲	8-9		ショパン12の練習曲	25-5	
	スクリャービン12の練習曲	8-12		リスト二つの演奏会用練習曲	森のざわめき	
				リスト二つの演奏会用練習曲	小人の踊り	

グレードの課題曲の中から2曲を必修とし、授業内で担当教員が合格を認めれば、次のグレードへ進む。
一つのグレードは終了できることを目標とする。

鍵盤楽器演奏Ⅲ			課題曲リスト		
グレード	作曲者	曲名	終了印		
6	ハイドン	ピアノ・ソナタ ホ短調 Hob.XVI.34 より第1楽章			
	モーツァルト	ピアノ・ソナタ ハ長調 K.309 より第1楽章			
	モーツァルト	ピアノ・ソナタ ハ長調 K.330 より第1楽章			
	ベートーヴェン	ピアノ・ソナタ 第3番 ハ長調 Op.2-3 より第1楽章			
	ベートーヴェン	ピアノ・ソナタ 第8番 ハ短調 Op.13 より第1楽章			
7	ベートーヴェン	ピアノ・ソナタ 第13番 変ホ長調 Op.27-1 より第3楽章、第4楽章			
	ハイドン	ピアノ・ソナタ 変ハ短調 Hob.XVI.36 より第1楽章			
	モーツァルト	ピアノ・ソナタ 変イ長調 K.281 より第1楽章			
	モーツァルト	ピアノ・ソナタ ニ長調 K.311 より第1楽章			
	ベートーヴェン	ピアノ・ソナタ 第14番 嬰ハ短調 Op.27-2 より第3楽章			
8	ベートーヴェン	ピアノ・ソナタ 第17番 ニ短調 Op.31-2 より第3楽章			
	ハイドン	ピアノ・ソナタ 変ホ長調 Hob.XVI.49 より第1楽章			
	モーツァルト	ピアノ・ソナタ イ短調 K.310 より第1楽章			
	モーツァルト	ピアノ・ソナタ 変ロ長調 K.333 より第1楽章			
	ベートーヴェン	ピアノ・ソナタ 第21番 ハ長調 Op.53 より第1楽章			
9	ベートーヴェン	ピアノ・ソナタ 第24番 嬰ヘ長調 Op.78 より第1楽章			
	ハイドン	ピアノ・ソナタ ハ長調 Hob.XVI.50 より第1楽章			
	モーツァルト	ピアノ・ソナタ ハ短調 K.457 より第1楽章			
	ベートーヴェン	ピアノ・ソナタ 第23番 ヘ短調 Op.57 より第1楽章			
	ベートーヴェン	ピアノ・ソナタ 第23番 ヘ短調 Op.57 より第3楽章			
10	ベートーヴェン	ピアノ・ソナタ 第27番 ホ短調 Op.90 より第1楽章			
	ハイドン	ピアノ・ソナタ 変ホ長調 Hob.XVI.52 より第1楽章			
	モーツァルト	ピアノ・ソナタ ニ長調 K.576 より第1楽章			
	ベートーヴェン	ピアノ・ソナタ 第30番 ホ長調 Op.109 より第1楽章、第2楽章			
	ベートーヴェン	ピアノ・ソナタ 第30番 ホ長調 Op.109 より第3楽章、第4楽章			
11	ベートーヴェン	ピアノ・ソナタ 第31番 変イ長調 Op.110 より第1楽章、第2楽章			
	ハイドン	ピアノ・ソナタ ニ長調 K.576 より第1楽章			
	モーツァルト	ピアノ・ソナタ ニ長調 K.576 より第1楽章			
	ベートーヴェン	ピアノ・ソナタ 第30番 ホ長調 Op.109 より第3楽章、第4楽章			
	ベートーヴェン	ピアノ・ソナタ 第31番 変イ長調 Op.110 より第1楽章、第2楽章			

グレードの課題曲の中から1曲以上を必修とし、授業内で担当教員が合格を認めれば、次のグレードへ進む。
一つのグレードは終了できることを目標とする。